

口腔外科学実習（末永 英之）

Practical Training in Oral and Maxillofacial Surgery（Hideyuki Suenaga）

キーワード

- ① 口腔外科手術
- ② 診断と治療方針の立案
- ③ 口腔顎顔面領域の解剖
- ④ 拡張現実支援手術
- ⑤ 細胞培養と動物実験の手法
- ⑥ 口腔外科専門医

関連する学位授与方針
DP(ディプロマポリシー)

①,②,③,④,⑤

関連する教育実施方針
CP(カリキュラムポリシー)

①,②,③,④,⑤,⑥

授業概要

本授業では、最初に口腔顎顔面領域の疾患全般を理解し、診断に必要な画像の読影および病理組織学的所見等の基本を修得する。口腔顎顔面領域の構造は非常に複雑であり、解剖学の知識は手術手技を習得する上でも重要な要素であるため、マーカレス拡張現実支援技術等を活用した手術実習を実施する。また、実臨床における手術の基本手技や周術期管理を実践することで、臨床能力の向上を図る。その上で、課題となる研究を遂行するために、計画立案や生化学・分子生物学・工学的的手法を用いた実験、データ解析を通じて、専門的技能や知識を高度化し、次世代の口腔外科専門医および研究者を育成することを目的として開講する。

授業科目の学修目標

口腔顎顔面外科学は、先天・発育異常、感染症、嚢胞性疾患、腫瘍および腫瘍類似疾患、口腔粘膜疾患、唾液腺疾患、顎関節疾患、神経疾患などを対象とし、研究の進展と知識の普及を図り、国民の健康増進に資する学問である。本授業では、これらの疾患に対する外科的治療および研究を主軸に、実習を通じて臨床課題を科学的に解決するために必要な知識・態度・技能を包括的に修得することを目標とする。

授業計画

①画像診断、病理診断学実習 12コマ・各検査の手順を理解するとともに所見の取り方を学ぶ。②臨床解剖学実習 12コマ・口腔顎顔面領域の解剖、手術手技を想定した実習を行う。③実臨床での診断、治療計画立案実習 12コマ・各種画像評価の考察、治療方針の選択議論を通して、Shared-decision makingのプロセスを学び、手術の基本手技や周術期管理を実践する。④培養細胞およびモデル動物を用いた基礎系実習 24コマ・細胞培養や動物実験の手法等を学ぶ。
実習担当教員:末永英之 小松紀子 清水 玲那 澤田 昌孝

教科書および参考書

各領域の最新の文献・ガイドライン、口腔外科ハンドマニュアル クインテッセンス出版

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

日々の知識習得は怠らず、細目については担当教員に確認をとりながら実習に臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

①基本となる諸検査から所見を読み取り、診断と治療方針の立案ができる。②治療選択に対する課題を提示でき、他職種連携およびチーム医療に関する理解と姿勢を持って実践できる。③口腔顎顔面外科手術の基本手技を修得し実践できる。④歯科医学研究の理論を深く理解し、リサーチマインドを持ちながら基礎実験に取り組むことができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
0%	0%	20%	0%	20%	20%	40%	0%

評価の要点

- ・レポートは、授業計画で行った講義について課題を提出する。10%×2回=20%
- ・ポートフォリオは、担当する症例の治療計画、研究立案を提出する。10%×2回=20%
- ・口頭試問は、授業終了後やカンファレンスで知識理解度を判定する。1%×20回=20%
- ・実技は、授業計画の4項目について理解度と達成度を総合的に評価し判定する。10%×4回=40%

理想的な達成レベルの目安

知識、技能、態度の総合的評価において80%以上の達成を求める。